



JCLIFE

2022年
6月号

JCI 一般社団法人尾道青年会議所 <http://www.ojc.or.jp/> 〒722-0035 尾道市土堂2-10-3 尾道商工会議所ビル3F
TEL:0848-20-1110 FAX:0848-20-1112 E-mail:ojc@urban.ne.jp Facebook:<http://www.facebook.com/isojcnw>

会頭公式訪問

2022年4月27日(火)に2022年度JCI日本会頭公式訪問が行われました。

広島ブロック協議会、会長の輩出地である東広島にて本年度は第71代会頭 中島土君が訪問され、「会頭への道」と題されたご講演を頂き広島県内各地会員会議所の理事長をはじめ県内LOMメンバー、広島ブロック協議会メンバーと意見交換会を行いました。お父様とのお話やこれまでの軌跡をお話しされとても有意義な時間となりました。また、中でも私が印象に残っているのは意見交換



会の中で、退会者に悩んでいるとの質問に、役割を通じて「面白い」を提供できれば、「辞めない」に繋がっていきます。そのような人にスポットライトを当てる役割と責任があると思っています。その中で、この組織に流れる愛を受け継いだり、いつの間にか人に無条件で奉仕できるようになれば、その方はJCMメンバーとして自走し始めます。その位置まで導くのが私たちの責任ではないでしょうか。とお話しされていました。とても心に残っておりましたので紹介させて頂きます。

(記事・専務理事 大西貴明)



理事長候補者等 選考委員選挙

6月2日(木)に行われた合同委員会にて理事長候補者等選考委員選挙が行われました。

3年ぶりの合同委員会での開催となりましたが、事前投票を行っていたメンバーが多くスムーズな進行が出来ました。安楽城直前理事長が今回の選挙についての心構えや注意事項をお話しされ、その後の投票によって、次年度理事長を選出する7名の選考委員が選出されました。

選考委員に選ばれたのは、歌一行君・大西貴明君・島田元太君・高橋建太君・高升純君・中島裕一朗君・吉田雄太君です。(50音順)

この7名に今岡理事長と安楽城直前理事長で構成される選考委員会によって次年度理事長が選出されます。さて、次年度理事長はどなたになるのでしょうか。

(記事・藤田祐輔)

アジェンダシステム 導入に向けて

今年度、総務広報委員会では理事会などの会議にJCB本会や広島ブロック協議会などで利用されているアジェンダシステムの導入について調査研究をしております。

アジェンダシステムとは、議案データのひもつけ、差し替え等をシステムが自動判断し、最新のデータが共有でき、議事次第作成、配布、会議参加者への連絡等をシステムがサポートし会議運営の効率が上がるシステムになります。

今月、理事のメンバーの皆様にあジェンダシステム用の議案の作成方法や、上程の方法の勉強会を行い、実際7月の理事会より試験運用していく予定となっております。

(記事・山本圭介)



異業種交流会 延期のお知らせ

5月20日に予定していました異業種交流会は、大型連休後の広島県内での新型コロナウイルス感染者拡大を鑑み延期をすることといたしました。

コロナの感染状況を見ながら秋口開催を予定しております。新しい日程が決まり次第、改めてご案内申し上げます。何とぞご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

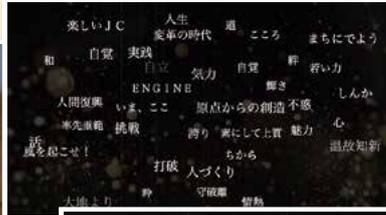
(記事：会員拡大委員会 委員長 沼尾 一)

創立65周年 記念式典特集

「感謝」～このまちで、これからもずっと～



オープニング



開会宣言



理事長挨拶



高橋シニアクラブ会長挨拶



スポンサー LOM 表彰



歴代理事長紹介

JCI蒲鉾が出来るまで



式典終了後にお配りした、参加記念品、桂馬蒲鉾商店「蒲鉾65周年記念セット」製造の様子をメンバーの村上康君にお願いし撮影していただきました。



①魚を捌き、3枚におろします。



②身採り機で魚の身をとりま。

③晒しと言って、魚の身を水で攪拌します。(血合いや脂分を除去し晒し方で味や弾力が変わります)

④水を絞って、石臼で擂ります。

⑤塩を入れて擂ることで身に粘りが出ます(これが蒲鉾の弾力の元です)その後、調味します。



⑥蒸す、焼く、揚げるなど色々な方法で加熱して出来上がり。



JCI蒲鉾は、①表面を焙る②JCI文字を刷り込む③蒸す④また焙る という工程を経ていきます。式典当日は、朝3時から蒲鉾製造。昼から式典準備。夜から式典、片付けと副実行委員長としてとても長い一日でした。

(記事：65周年実行特別委員会 副実行委員長 村上 康)

2017年度 事業



60周年記念事業 ONOMITI KOKORO Festival

2018年度 事業



防災出前授業

2019年度 事業



尾道開港850周年 コメフェスタ

2020年度 事業



尾道花火プロジェクト2020

2021年度 事業



おのみち2525プロジェクト (ラッピングバス)

2017~2021年度事業



記念事業紹介

多くの方々に支えられ、5月14日（土）に創立65周年記念式典を無事終えることが出来ました。

オープニングでは、65年の歴史とテーマである「感謝」を感じて頂けるように65名の歴代理事長と共にその年のスローガンが入ったオープニングムービーの後、書道パフォーマンスにて書道家 藤森大節氏にテーマの「感謝」という文字をベッチャー太鼓の音に合わせて、書き上げて頂きました。

その後、吉田実行委員長の開会宣言に始まり、理事長挨拶では第66代 今岡理事長より「65年前、まちのためにという想いから青年会議所の歴史がはじまり、先輩諸兄が築いてきたまちの一体感という強みをこの65周年をきっかけにより強固なものにし、今後の事業にも生かし永続的に引き継いでいきたい」と歓迎と感謝の意をお伝えしました。今年も新型コロナウイルスの影響で新年例会からオンライン開催という形が多かった為、はじめて今岡理事長がOB諸先輩方の前に登壇し挨拶する機会となりました。

また、スポンサーJCであります、公益社団法人呉青年会議所への感謝状と記念品を贈り、感謝の意を表しました。呉青年会議所 糸谷理事長より挨拶を頂き、この65周年を皮切りに更に力強く繋がっていくことをお約束しました。そして、2017年～2021年の歴代理事長の皆様には感謝状と記念品を贈り、太田先輩よりご祝辞と激励のお言葉を頂戴いたしました。記念品は、それぞれの理事長のテーマカラーに合わせた色のネクタイを贈りました。

記念事業紹介では、加藤副実行委員長が「まちの人達の願いごとを軸に事業を構成し、これからも尾道と一緒に歩んでいくための事業にしたい」と紹介しました。

この記念式典を通じて、これまで永きに渡り尾道の礎を築いてこられた先輩諸兄や、各地会員会議所メンバー、関係諸団体の皆様に感謝と敬意をお伝えし、70周年、更には100周年へと、受け継いできた想いを更なる高みへと昇華させていくこととお誓いすることができました。

この度の記念式典は、直前での内容変更、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、記念式典の様子を動画ライブ配信、またオープニングでの書道パフォーマンスとベッチャー太鼓という初めての試みを取り入れたこともあり、無事成功するかというプレッシャーを感じていましたが、関係各位にご協力いただき、そして現役メンバーの協力や多くの先輩からのご支援、そして素晴らしい委員会メンバーにも恵まれ、何とか責務を全うすることが出来ました。現役メンバー、委員会メンバーの皆様には無理なお願いもしましたが嫌な顔をせずに、対応して頂きました。本当に感謝したいと思います。

(記事：65周年実行特別委員会 副実行委員長 村上 康)

ご来賓の皆様





本年度は、尾道青年会議所が創立65周年を迎える記念すべき年となります。そこで、総務広報委員会が「65」という数字にフォーカスし、調査する「シリーズ65」を掲載いたします。

今回紹介するのは、ちまきで有名な中華食堂一楽さんです。当店は、1957年12月に先代の増田進さんと亀子さんが新開の地に大衆食堂「一楽」として開店しました。我々尾道青年会議所メンバーには言わずと知れたアフターのお店の1つではないでしょうか。

5月のとある日、「委員会の途中にお腹が空くのでちまきを委員会メンバーにご馳走しよう!」と大池副委員長からの提案で取材もかねてお店まで二人で足を運びました。お店のかたも尾道青年会議所と同一年の65歳という事をご存じで取材もスムーズに進みました。



今こそ定番のちまきですが、開業当初はメニューになく、中華に絞って営業をするようになってから登場したそうです。1983年に週に一度の限定商品として売り始めたところ、とてもおいしいと町中に評判

が広がり、定番商品になったという他のメニューとは変わった歴史を持った一品です。

委員会でちまきの竹の皮を開けると小豆島で作られた醤油のとて

もいい香りが部屋中に広がり食欲をかき立てました。神辺産のもち米、西日本産の干椎茸、九州産のタケノコといったこだわりの具材がぎっしりと詰まったちまきがメンバーの心をわしづかみにしてくれたおかげで、いつも以上に活発な意見の飛び交うとてもいい委員会となりました。副委員長ありがとうございました!

個室感覚で楽しめた小部屋もコロナの影響により、お持ち帰り専門のブースに変わっていますが、お店の料理の味は変わらず最高です。次のアフターにいかがでしょうか?

(記事：村橋 聡)



観光人力車

65周年実行特別委員会幹事の向井豪佑です。
5月1日より会社の新規事業として、人力車を始めました。

始めた経緯ですが、新型コロナウイルス感染症の影響で観光客数が減少している現状の中で、尾道に根付く企業として何か地元へ貢献できる事業がないか模索していた時、学生時代を過ごした京都で見かけた、人力車が街中を走っている風景を思い出し、人力車を尾道で走らすことができたならば、と考えて始めました。

コースですが、20:40:60分、向島コースがあり、主に海岸通りを走行します。20分コースは尾道渡船付近まで、40分コースはゆとりの広場付近まで、60分コースは新開をめぐります。向島コースでは尾道渡船を利用し、住田製パン所さんのパンや、後藤鉱泉所さんの飲み物を楽しめます。

海と山の見える風景、そして、潮風を肌で感じながら情緒溢れる街並みを眺めることができる人力車は、尾道でしか味わうことができません。

是非、一度非日常を体験してください。

(記事：65周年実行特別委員会幹事 向井豪佑)



尾道人力車ええじゃん乗車記

総務広報委員会取材班メンバーの向井豪佑君が5月1日より運行を開始した尾道人力車ええじゃんに乗車してきました。通りなれた尾道の道もいつもと違う視点で新鮮に感じられ、会話が弾み楽しい時間を過ごせました。予約は080-4550-7553まで。

(記事：大池 慎三)



HP



編集後記

鯉のぼりを取めると同時に胸躍る。今年一年の結末はどうなるのか。会社の優秀な社員はどこまで成長するか。顧客は喜んでくれるか。わくわくする。勝ちにこだわってもいい。内容にこだわってもいい。自身の役割を果たす。願わくは、祝いたい。広島再興。刺激受け、続けたい。栄光への減量。(記事：中原 元氣)

HP



facebook

